

光明山古墳発掘通信 №2

浜松市文化財課（浜松市地域遺産センター） 2018年4月16日

光明山古墳の後円部の構造が判明しました。

光明山古墳で実施している発掘調査によって、光明山古墳の後円部は二段につくられ、それぞれの斜面には葺石が施されていることが判明しました。中段のテラスと墳頂部では埴輪が集中して出土していることから、埴輪列があったおおよその位置もうかがえるようになっています。



光明山古墳後円部の調査状況

後円部主軸方向に設定したトレンチでは、上段の葺石が極めて良好な状態で残っていました。



北側トレンチ（後円部上段の葺石）

北側トレンチで確認した上段の葺石は、基底部から墳頂部まで遺存していました。基底部や区画帯には大きい石材が用いられていることも明確です。



西側トレンチ

西側トレンチでは、中段のテラスが確認できました。



埴輪が出土したようです

西側トレンチでは、倒れ込んだ状態で円筒埴輪が出土しています。

【現地説明会のご案内】

- ◆4月29日（日）に市民向けの現地説明会を行います。
午前10時から、午後1時30分から 申込不要 直接現地へ
- 【調査中は発掘調査現場をご見学いただけます】
- ◆5月中旬までの調査期間、来訪者の方には調査状況を紹介します。
※雨天時は休工します。
※都合により作業を休止することがあります。
※発掘調査現場には段差や傾斜等があり、大変危険です。無断での立ち入りはご遠慮ください。

